

## 平成 25 年度 第 1 回医学教育 FD/ICT 活用研究委員会議事概要

日 時：平成 26 年 2 月 13 日（木） 15：30～17：30

場 所：公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局会議室

出席者：内山委員長、福島委員、平形委員、山本委員、高桑委員（事務局 井端、森下、平田）

### 1. 検討事項

今年度は教育の質的転換に向けた教育改善の促進を目指して、昨年度とりまとめた「ICTを活用した分野別の教育改善モデルの提言」と、それに対するサイバーFD研究員の意見を踏まえて、学生の能動的学修（アクティブ・ラーニング）を実現していくための効果的な取り組み方や教員の職能開発等について、今後の研究課題を検討することとしている。そのため今回は、医学分野における教育改善モデルに対するサイバーFD研究員の意見を確認した後、医学分野における教育改善モデル実現に向けた来年度の研究課題について検討した。

#### （1）アンケートの意見を踏まえた教育改善モデルの見直し

モデルへのアンケートの意見は 1,816 件送付した結果 13 件寄せられ、意見のうち主なものは以下の通りであったが、モデルを見直したところ特に修正の必要はないことを確認した。

- ・医学教育の前提となるコミュニケーション能力育成は、人間教育として実習等の中で指導する必要があるとの指摘については、ICT 活用には限界があること踏まえて本モデルを作成していることを改めて確認した。
- ・教育改善モデル【1】の「2. 改善モデルの授業デザイン」「2.1 授業のねらい」の「自己評価を通じて課題解決に取り組む姿勢を身に付けることを目指す。」については、現在の学生は自分の力で問題を発見し解決していく能力がもともと身につけていないので、自分の力で解を見出していくことは困難との指摘があったが、学生の全員がそのような状態ではないため、原文通りとすることにした。
- ・教育改善モデル【3】にある「レスポンスアナライザー」について、用語集がないとの指摘であったが、冊子（および Web 掲載の PDF 版）には用語集で説明していることを確認した。

#### （2）来年度の研究課題

まず、教育改善モデルを踏まえて今後の本委員会での課題について、以下の通り意見交換を行った。

- ・医学教育では基礎知識の活用能力が重要で、アウトカムを明確にするためには、予習により学生の能力が身についたかどうか評価できるよう、様々なケースに対応できる問題解決能力を測る仕組みが必要。
- ・基礎教育の段階で Flipped Classroom（反転授業）を導入し、その後で、知識の修得を確認するために授業でグループディスカッションなどを行うことがよいのではないかと。しかし、Flipped Classroom（反転授業）は一部の教員にしか馴染みがないので、現状では実施している例が少ない。
- ・東京女子医科大学では基礎教育で PBL チュートリアルを実施し、臨床教育の前段階においては TBL を実施して、復習も含めた準備教育を行っている。予習教材も用意してプレテストを実施し、グループディスカッションでは臨床推論（応用問題）やグループ内の相互評価を行っている。
- ・Flipped Classroom（反転授業）を実施するには、知識を学ばせるコンテンツづくりに工夫が必要で、例えば、10 分程度の短時間に細分化された動画、穴埋め問題など考えさせるツールなどである。
- ・医学分野でのコンテンツは、基礎医学の講義ビデオが考えられる。

以上の意見を踏まえた上で、本委員会では Flipped Classroom（反転授業）の実験を目指して、今年度の委員会では企画を行い、実験は今年度中の実施が難しい場合は次年度に行うことを確認した。

### 2. 次回委員会

次回委員会は、各委員の都合を確認した上で、4 月 17 日または 4 月 24 日に開催することにし、Flipped Classroom（反転授業）の実験に向けて企画を行うことにした。